



新町駐屯地見学で自衛隊をPR

群馬地方協力本部高崎地域事務所 所長 土屋3等陸尉は、8月20日(木)新町鉄南剣道教室の生徒や保護者等13名に対し、新町駐屯地見学を実施した。

例年は、新町中学校が総合的な学習の時間として3日間の基本教練、ロープワーク及び自衛隊体操等を実施していたが、今年にはコロナ禍で中学校として実施できなかった為、同中学校に通う生徒が多い新町鉄南剣道教室から、高崎地域事務所を經由して駐屯地見学の申し込みを受けた。新町駐屯地は8月から見学者の受け入れを開始しており、開催にあたっては、コロナ対策(マスクの着用・消毒等)を万全にしてソーシャルディスタンスを保ちながら、駐屯地見学を実施した。

見学に参加した生徒達は、駐屯地広報担当者の楽しい話や、初めて聞く自衛隊の訓練、災害派遣等の話を目を輝かせながら前のめりに話を聞き入っていた。小学生は、ミニ戦闘服の体験試着に大喜びで、駐屯地に展示している戦車やヘリコプターの前に並び笑顔で記念撮影を行った。群馬地本高崎所は、今後も効果的な一般広報により自衛隊を幅広くPRし、地域住民の理解の深化に努めるとともに、募集目標の達成に尽力していく。



桐生防災講演会に参加して

自衛隊群馬地方協力本部(本部長・防衛事務官 井ノ口哲也)は、8月28日(金)桐生市市民文化会館において桐生市東地区自主防災会主催の「自衛隊員による防災講演会」で講話を実施した。自主防災会とは「自分たちの地域は自分たちで守る」を合言葉に、地域住民自らが協力して防災活動をする組織である。

講演会では群馬地本広報班長(1等陸尉 大島保洋)が自衛隊の災害派遣が近年増加傾向にある現状を説明し、平成30年西日本豪雨での人命救助、生活支援、予備自衛官等の活動を実際に自ら経験した災害派遣活動での体験談を交えながら写真で解説した。また令和元年台風15号、19号等、水害が発生している点に触れ、水害の危険予測のため、桐生市ハザードマップを確認し、マイタイムラインを作成する等が重要であることを説明した。更に実際に役立つ防災知識として、ロープワークの中でもやい結びを解説した。来場者に入リング索を配り、ロープに触れてもらうとともに2名の方に実演して頂いた。実際にもやい結びを体験した方はロープワークに苦戦し「練習が必要ですね。」と感想を述べていた。

最後の質疑応答では、「辛かったこと、良かったことを教えて下さい。」や「災害派遣現場にはどのくらい滞在するのですか。」等の質問が相次ぎ、とても興味をもってもらえたと実感することができた。

今後も防災講話等の機会があれば積極的に参加し、防災意識の普及とともに自衛隊の情報発信を推進していく。



講話をする大島1尉



講話を補助する亀田2海曹と一般来場者2名

